5 地域における公園の役割

地域循環型のパークマネジメント

第1回の山崎さんから3タイプのパークマネジメント（①市民参加型、②企業連携型、③地域循環型）があるとお話しがありました。③のタイプは市民や企業が参加し、地域の中で活動やお金が回るようなマネジメントです。2020年にリニューアルされた泉北ニュータウンにある大蓮公園はこれに近い公園です。リニューアルされる前からまちの中で市民活動をしていた人たちが民間の不動産企業と組んで、公園内で定期的にマルシェを開いたり、資料館をリニューアルした施設「space. SUEMURA」を運営したりしています。活動は公園外にも及び、運営資金を集めるために市民が主体となった財団をつくりました。公園の価値をあげることに加えて、その価値を地域にも波及させることができればすばらしい公園になるはずです。公園の環境を変えることだけではなく、私ならこんなことをやってみたいという想像力を膨らませましょう。

まちづくりの４つの要件

地域資源を生かすためのまちづくりの4つの要件として①地域資源の価値を地域外へ発信していくこと、②地域資源の価値を地域内生活者や関連組織と共有する仕組みがあること、③地域資源を体験する場があること、④持続性があることが言われています。昨今の公園は「賑わい至上主義」が先行して、まちの持続性に寄与する公園や、人生を深く過ごせる公園という視点が疎かになっているのではないかというのが私の感覚です。まちをつくるのは、まちに対する誇りと愛着だと思います。リーダーというのは、自分が引っ張る人というよりも、チーム全体のパフォーマンスの向上について目配りしながらいろんな人に刺激を与えていける人です。リーダーを中心に「普段は違うこともやっているが、公園でもこんなことができる」という人がたくさんいて、それらが弱いネットワークでつながっている状態が理想的です。

武田 重昭さん
大阪公立大学大学院 農学研究科 准教授

1975年生まれ。UR都市機構にて屋外空間の計画・設計や都市再生における景観・環境施策のプロデュースに携わった後、兵庫県立人と自然の博物館にて生涯学習プログラムの企画運営などを実践。2013年より母校にて教育・研究を展開。博士（緑地環境科学）。技術士建設部門（都市及び地方計画）。登録ランドスケープアーキテクト。

6 交流会ではみんなのやってみたいを聞きました！

千里中央公園でどんな活動をしてみたいかを6つのテーマに分かれてアイデアを出し合いました。
それぞれのテーマで生まれたアイデアの一部を掲載します。

食・健康
- ヨガや森林浴をやりたい
- カフェで1日店主ができると面白そう
- 公園の竹を使って流しそうめんをしてみたい
- 地元の食材が食べられるといい
- 自然療法ができないか？
- ラジオ体操やジョギングができれば

アート・文化
- セルシーにあったようなステージを千里中央公園でもできるといい
- 音楽を楽しめるプログラムがあると楽しめそう
- 道などに絵を描きたい

子育て
- 寄付で運営する図書館ができないか
- 水遊びができると楽しそう
- 竹細工など公園の資源を使いたい
- プレーパークができる公園だといい
- 自然から学びがあるプログラムができないか

自然・エコ
- 池の水を竹炭で浄化できないか
- ごみや木などでコンポストづくり
- 自然や生物の観察や体験ができると公園に親しみがもてそう
- 巣箱をつくりたい
- 緑の手入れを手伝いたい

DIY
- 市民も公園管理に参加できないか
- 公園の資源で遊具をつくりたい
- シェア畑や農園があると楽しそう
- 料理ができる公園はどうか
- 楽器（カホン）は他でつくったことがある

しくみ・DAO
- 貢献や感謝の見える化ができそう
- DAOアプリがあるといいな
- 参加のハードルをさげるための発信が大事
- 公園で行われるプログラムがカレンダー等で見えるようにしたい

vol.2 企画・実践編

千里中央公園では、2023年3月のオープンに向けて、新しい公園づくりを進めています。本ワークショップでは、公園を楽しむための企画を地域の方とつくっていきたいと考えています。5回のワークショップを通じて、公園のことを知り、一緒に活動する仲間と知り合い、地域や公園のためになる活動を企画、実施します。楽しい企画を生むための講座もあります。たくさんの方からの応募をお待ちしています。

1	10月29日（土） 14:30-17:30	公園を知る、仲間を知る
2	11月26日（土） 14:30-17:30	公園を楽しむ企画を考えよう①
3	12月11日（日） 14:30-17:30	公園を楽しむ企画を考えよう②
4	1月28日（土） 14:30-17:30	活動や公園をPRしよう
5	2月25日（土） 14:30-17:30	活動を準備しよう

応募方法や詳細は
こちらのリンク先よりご確認ください →

事前申し込み 【締切】10月16日（日）

主催:エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社
共催:豊中市 環境部 公園みどり推進課　企画・運営:studio-L

講座編 IOOORE PARK LAB みんなでつくる千里中央公園

2022年7月から8月にかけて、公園の新しい使い方を発見する講座、「IOOORE PARK LAB（センリパークラボ）みんなでつくる千里中央公園」を開催しました。公園をはじめとする公共空間のマネジメントを専門とする5人の講師からのレクチャーとともに、千里中央公園での活動の可能性について意見交換しました。

vol.1 講座編 2022年7~8月 → vol.2 企画・実践編 2022年10月~2023年2月 → オープン前お披露目会 企画した講座を実施 2023年春頃 → 千里中央公園収益施設オープン 2023年3月

説明会／レクチャー＋公園ツアー			
1	7月9日（土）	13:30-16:45	山崎亮さん／コミュニティデザイナー・studio-L 代表 地域の暮らしを楽しくする公園とは
講座／レクチャー＋ワークショップ			
2	7月16日（土）	10:00-12:00	山納洋さん／common cafeプロデューサー 人と人が出会う場のつくり方
3		14:00-16:00	田中元子さん／株式会社グランドレベル代表取締役 公園で楽しみをふるまおう
4	7月30日（土）	10:00-12:00	泉英明さん／都市プランナー・有限会社ハートビートプラン代表 公共空間の新しい使い方を発見する
5		14:00-16:00	武田重昭さん／大阪公立大学大学院 農学研究科 准教授 地域における公園の役割
交流会／交流会＋ワークショップ			
6	8月6日（土）	14:00-16:30	先輩にきいてみよう！公園づくり交流会

千里中央公園活性化事業について

豊中市では、千里中央公園において公募により選定した事業者「千里中央公園パートナーズ（株式会社ローソン、西日本電信電話株式会社（NTT西日本）、エイチ・ツー・オー リテイリング株式会社の3社）」を中心に、公民連携による魅力ある公園づくりを進めています。2023年春の収益施設のオープンに向けた地域のみなさんとつくる千里中央公園の新しい取り組みを展開しています。

PLAY IOOORE SCENES
プレイ センリ シーンズ

公園の魅力を再発見し、千里のくらしを彩る千の景色をみんなでつくります。

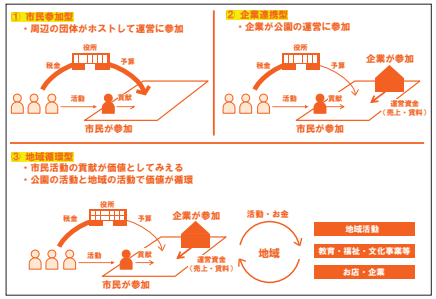
Open すべての人に開かれている
Ordinary 日常を彩る
Organic いまあるものを活かす

※カフェ完成イメージ

1 地域の暮らしを楽しくする公園とは

パークマネジメントのタイプ

植栽の管理や清掃といったメンテナンスは公園が誕生した時から行われてきました。メンテナンスに加えて「マネジメント」が大事だと言われるようになった背景は、市民や企業が公園の運営に参加する仕組みができてきたからです。パークマネジメントには3つのタイプがあるように思います。1つめが「市民参加型」のパークマネジメント。市民が税金を納め、行政が公園のメンテナンスに予算を充てるまでは従来通りですが、25年程前から公園でヨガ教室や音楽などのプログラムを開催する市民が現れました。2つめが「企業連携型」。行政から公園にだす予算を減らし、企業が公園で稼いでメンテナンス費に充てる方法です。ここでの課題は、儲かればそれで良いという企業が現れた時。公園をショッピングセンターのように変えてしまい、お金を払わないと楽しめない場所にしてしまうことです。公園がそういう場所で良いのかという疑問が生まれます。また、企業は頑張っているが市民の参加がないというパターンもあります。最後の3つめが「地域循環型」のパークマネジメント。市民や企業の活動が公園だけに留まらず、地域や店舗と連携してプログラムを開催したり、経済が循環したりしているタイプです。



これからのパークマネジメント

パークマネジメントについてのひとつの可能性の話題提供をします。難しい話はしませんが、パークマネジメントにDAO（自律分散型組織）を用いることに可能性を感じています。これからWeb3.0の時代がやってきます。DAOの仕組みを導入すれば、公園への貢献度合いに応じてNFTが発行される仕組みができるかもしれません。DAOについてみなさんで学び、可能性について話し合うのも面白いかもしれません。

▲講座終了後には、千里中央公園のフィールドワークも行いました。

山崎 亮さん
studio-L 代表取締役

関西学院大学教授。慶応義塾大学特別招聘教授。地域の課題を地域に住む人たちが解決するためのコミュニティデザインに携わる。まちづくりのワークショップ、住民参加型の行政計画づくり、建築やランドスケープのデザイン、市民参加型のパークマネジメントなどに関するプロジェクトが多い。

2 人と人が出会う場のつくり方

人をつなげる場づくり

フランスで流行した哲学カフェをヒントに、私は雑学カフェ「Talkin'About」を始めました。日時や場所、話すテーマを設定し、集まった人でお茶を飲みながら雑談します。各自が持っている背景や知識、情報を棚卸しするすばらしい機会になりました。また、バーやカフェを日替わりマスターが運営する「Common Bar」「Common Cafe」の取り組みも人をつなげる場となりました。マスターの興味や人柄でお客さんが変わるのが面白かったです。2004年にはじめた「六甲山カフェ」では場づくりの難しさを痛感しました。興味が同じ人が集うのは簡単ですが、このカフェは多様な人たちが出入りできる場所だったため、折り合いをつけながら、やりたいことをどう実現できるかを試行錯誤しました。社会的に立場の弱い人や、課題を抱えている人など、様々な人たちを包摂するような居場所をつくることが大切だと学びました。

プロデュースに必要な3つの立場

新しいことを進めていく時には、3つの立場の人が必要です。言い出しっぺの「やりたい人」に加え、やりたいことを実現できる力を持った「やれる人」、さらに当事者となる「やらなければいけない人」です。この3者で事業を担っていくことが大切です。たとえ、「やらなくてはいけない」という組織の中にいたとしても、インフォーマルな個人の立場として、「自分が本当にやりたいことは何なのか」について考えてみることです。プロジェクトのために「やらなければいけない」ことはありますが、いかに「みんなのやりたい」こととして再編集していくことが求められます。ビジョンを示して多くの人を巻き込む動きが必要です。なぜその取り組みをするのか、そして誰のためにやっているのかを見据えて、5W2H（いつ、どこで、誰が、何を、どのように、なぜ、いくら）を意識しながら事業を進めていきましょう。

山納 洋さん
common cafe プロデューサー

1993年大阪ガス入社。大阪ガスネットワーク（株）事業基盤部において地域活性化、社会貢献事業に関わる。現在同社都市魅力研究室室長。一方でカフェ空間のシェア活動「common cafe」「六甲山カフェ」、トークサロン企画「Talkin'About」、まち観察企画「Walkin'About」などをプロデュースしている。

3 公園で楽しみをふるまおう

マイパブリックで振る舞うことの楽しさ

人の目に入りやすい偶然目に飛び込む建物の1階や公園、広場、空き地などの“グランドレベル”をプロデュース・コンサルティングしています。この仕事で世界平和に少しでも貢献したいと思っています。私は趣味の延長で、無料でコーヒーを提供する「パーソナル屋台」を立ち上げました。様々な境遇の人たちとの対話が生まれたこの体験から、手づくりで「公共」をつくれるのではないかと興味をもち始めました。好きなことや趣味を楽しんでいる人で生み出される空間を、私は「マイパブリック」と呼んでいます。「パーソナル屋台」というマイパブリックで、多様な価値感との出会いがありました。私が考える豊かなまちとは、人々がまちの暮らしを楽しみ、誰かと接することを楽むような、いきいきとした人々の姿が見えるまちです。価値観が多様化した今、それぞれの愛情や愛着が感じられる個性を生かしたまちづくりが必要だと思います。

好きなことにこだわってまちづくりに参加しよう

多様に富んだアイデアや価値観をもたらしてくれる私設の公民館「喫茶ランドリー」は、洗濯機やミシンを備えた喫茶店です。職場や学校では得られない「独特の許され感」があります。「居心地の良い場所」とはどのような場所なのか追求していくと、昔ながらの喫茶店にたどり着きました。気取らないデザインを心がけ、敷居を低く感じてもらえるようにしました。「ここで何かをしたら楽しそう」「ここでなら何でもできそう」と思ってもらえる場づくりをしました。オープンから半年で活動したグループは100を超えました。みなさんにお伝えしたいことは、あなたの「したいこと」や「好きなこと」にこだわってまちづくりに参加してほしいということです。そして、あなたがしたいことは「あなたにしかできないこと」です。特別なことではなくていいんです。あなたの好きなことで楽しみをふるまってみませんか。

田中 元子さん
グランドレベル代表取締役

建築分野でのライターを経験後、2016年「1階づくりはまちづくり」をモットーに、豊かな1階づくりに特化した株式会社グランドレベルを設立、コンサルティングやプロデュースなどを手がける。2018年私設公民館として「喫茶ランドリー」開業。街中にベンチを増やす活動の他、ベンチの共同開発やブランド立ち上げなどにも携わっている。

4 公共空間の新しい使い方を発見する

公園がよくなることでまちの価値をあげるという発想

海外では徒歩10分以内に公園にアクセスできるまちをつくろうという動きがあります。健康増進や貧困の差をなくすこともねらいです。公園自体を何とかしようということよりも、公園が良くなることで自分のまちが良くなり、まち全体の価値をあげていこうという考え方です。日本でもこのような動きがはじまり、「あそべるとよたプロジェクト」はその好例です。空き地などの使われていないスペースで市民活動を活性化し、チャレンジする人を増やすことで、まちを変えていこうという取り組みです。なるべく禁止がない公園にしようと心がけ、みんながルールを守るための動機づけにつながるようなイベントを開催しています。立場の異なる人々の意見をすり合わせることは難しいですが、個人の「想い」を、みんなにとって良いことになる「公共性」に昇華させる仕組みづくりが大切だと思います。

大切なのは「こうなったらいいな」という視点

つくって終わりではなく、どのような人に、どう使ってほしいのかを考えていくことが大切です。どう運営していくのか、どう魅力をつくっていくのかについても、「つかう目線」で考えていく必要があります。行政や世話人（公共的な視野をもっている市民・企業）、将来運営していこうという人たちの間で「ビジョン」をつくっていきましょう。ビジョンと聞くと「良いものをつくらなくてはいけない」と思いがちですが、実はそうではありません。全員合意が必要ない場合もあります。大切なのは、なぜ、何を、どこでやるのか、その場をどう使ってもらうのかということです。アイデアがあったらとりあえずやる。課題を見つける。そして再トライする。そうすると、別のアイデアが生まれます。これらを繰り返していくことで、個人の想いや興味が社会の価値になると私は信じています。

泉 英明さん
ハートビートプラン代表

大阪なんば、西梅田、豊田、岡崎、姫路のまちなか再生や公共空間のプレイスメイキング、工業地域の住工共生まちづくり、着地型観光事業「OSAKA旅めがね」、水辺空間のリノベーション「北浜テラス」「水都大阪」事業推進、「長門湯本温泉」の温泉地再生、市営住宅エリアの再生「大東市morinekiプロジェクト」などに関わる。まちづくりの「まち医者」としての関わりを目指す。